

産業イノベーション人材育成等に資する高等学校等教育改革促進事業の採択結果について

令和8年7月9日

高 校 教 育 課

1. 経緯

今年2月、文部科学省が2040年を見据えた新たな高等学校教育の在り方を示す「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）～2040年に向けた」「N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～」（以下「グランドデザイン」という。）を策定、公表した。

本グランドデザインを踏まえ、教育内容の抜本的改革と、それを可能にする環境整備を一体的に行う改革を先導する拠点（以下「改革先導拠点」という。）を先行して創設し、その取組・成果を地域全体へ波及させるパイロットケースを構築することを目的として文部科学省が公募を行い、本県も文科省が示した3つの類型に基づいて、4つの拠点の申請を行った。

審査の結果、6月30日に文部科学省から採択結果の公表が行われた。

2. 文部科学省が示した改革先導拠点の類型

類型①：アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

類型②：理数系人材育成支援

類型③：多様な学習ニーズに対応した教育機会の確保

3. 採択結果

本県からは、改革先導拠点に次の高校が採択されました。

拠点	類型の名称	事業計画名	上限額
大分工業 高校	(類型1) アドバンスト・エッセンシャルワーカー 等育成支援	高度工業人材育成拠点 「高度技能者」「開発技術者」の育成 ～つくる手×デジタルが大分の工業の未来をつくる～	約15.8 億円

4. 全国の採択状況

前回公募にて申請を行っていた2県を除く45の都道府県が合計171拠点を申請し、結果として約4割である69拠点が採択。

5. 再申請に向けて

採択に至らなかった拠点については、今後、7月下旬頃から改革先導拠点の追加申請が行われると公表されており、本県においても文部科学省からのコメントを踏まえ、今後の対応を検討。

人材育成の現状・課題

[本県の状況] 製造業（自動車、半導体、コンビナート等）や建設業は産業従事者の約22%を占める本県の基幹産業
 [現状と課題] ①工業高校生の県内就職率61.4%（R7）、理工系学生の県内就職率22.5%（R6）で人材確保が課題
 ②実習設備の陳腐化・老朽化（20～30年超）により企業水準の技術教育が困難
 ③半数以上の工業科生徒が「先端技術対応の学び」「大学・企業と連携した実践的な学び」を希望
 ④県内企業・大学等との連携により本県工業の振興を担う人材と工業教育を担う人材の育成が必要

主な事業内容

◎ 学科横断型科目の開発



➢ 鉄鋼・半導体・自動車等の地元産業と連携し、「半導体テクノロジー」「基礎」「グリージンコンピナート概論」等の学科横断型科目を新開発

◎ ものづくり拠点施設の設置



➢ 本県の産業特性に対応し、最新半導体実習機器等を導入。各学科が横断的に活用



➢ 6学科共用の実習スペースを整備。企業技術者・大学教員を招いた合同実習や、3Dプリンタ等を活用した課題解決型学習を展開



◎ 企業・大学・他学科等と連携した学びの社会実装



➢ 商業科との連携によるマニファクチャリングチェーン研究や福祉科との連携による介護支援ロボット研究等を実施
 ➢ 高校在学時の聴講科目を大学進学後に単位認定されるアドバンスト・ブレイスメントの検討

事業概念図

学科横断の新設科目による高度専門人材の育成

電気×電子×機械×工業化学×建築×土木の本県産業の特徴を踏まえた3科目を新設し、産業界・大学との連携により高度な学びを提供



産業界・大学と連携したインターンシップ

地元企業での長期インターンシップを導入し、現場での実践を通じ、高度技能者・開発技術者としての専門力と職業意識を育成する。

他校への普及・波及

- ・ 工業科設置校（県内工業高校）が協力校として参加
- ・ オンライン部活動・教員研修等を通じた連携を実施